



笹小だより

No. 6

令和元年9月30日
横浜市立笹野台小学校

「見守る」

校長 飯田 雅人

以前にスポーツ交流という話題の中で次のようなお話を聞いたことがあります。小学生を対象としたある地域のサッカーチームの監督のお話です。

「ここ5～6年サッカーをするチームの子どもたちの様子に異変を感じた。「練習を始めるよ。」というコーチの指示があるまでは子どもたちは座り込んで自分たちでボールを触ろうともしない。確かに優れた技術をもった子どもたちはたくさんいるが、まず練習中に笑顔がなくなった。チーム内のパス回しを見ていると、力の強いある特定の子にしかパスが回らない。コーチの指示通りにしか動くことがなく、挙げ句の果てには、チーム内の子どもたち同士や保護者の間にまで、レギュラーとサブのメンバーの中でトラブルが起こる・・・など数年前には見られなかった光景だ。」というものでした。要するに子どもたちの中にサッカーを通しての心の育ちが見られないということです。

さっそく指導者たちは、子どもたちのために指導法の改善に取り組んだそうです。今までの指導法はコーチも保護者も子どもたちへ指示が多すぎたのではないかと、また子どもたちに試合の結果だけを求めすぎたのではないかと等と。

学校の中でも教師の指示が多くなればなるほど、子どもたちは自分で考えることをしなくなり、指示待ちの姿勢になりがちです。言われたことはできるかもしれないが、自分たちで何とかしようとする姿勢がなかなか備わらないということです。子どもたちだけに任せると、時には当然トラブルが起きたり、悩んだりすることも出てきます。でもその時こそが、子どもたちに自分たちで解決しようする力を身に付けさせるための絶好のチャンスなのです。教師が子どもたちの様子をほどよい距離で見守る必要があると思うのです。ただし安全などに関わることには、教師の早急な指導が必要なことはいうまでもありません。ご家庭での保護者の方のわが子への接し方にも相通じる所があるかと思えます。

話は変わりますが、本校では、子どもたちの安全を守るために、登下校時はもちろんのこと下校後の様々な場面においても多くの地域の皆様が子どもたちの様子を見守ってくださっています。大変ありがたいことです。この場をお借りしてお礼申し上げます。学校では、行政の関係諸団体と地域の皆様のご協力を得て、PTA 校外委員の皆様が中心になっていただいて、7月の中旬にスクールゾーン対策協議会を行いました。また9月上旬には、学校の教職員とPTA 校外委員の皆様と協働して、子どもの通学路を中心に学区内パトロールを行い、交通安全や不審者対策という視点で登校班の集合場所と通学路等の再点検をしました。子どもたちを見守る活動は、日頃より学校と保護者の皆様、地域の皆様が連携して行っていくことが一番大切であると考えています。今後とも、子どもたちの安全を守るために、できることから結構ですので、ご協力いただくと助かります。よろしくお願い致します。

笹野台小学校合い言葉 **元気いっぱい** **やさしいいっぱい** **笑顔いっぱい** **心かがやく笹小キッズ**